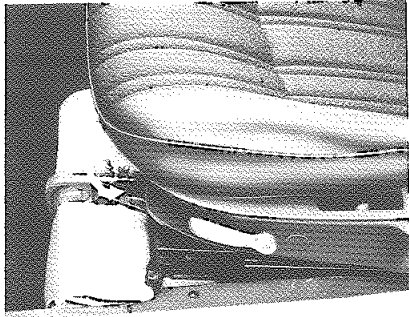


# 車の簡単な手入れと処置

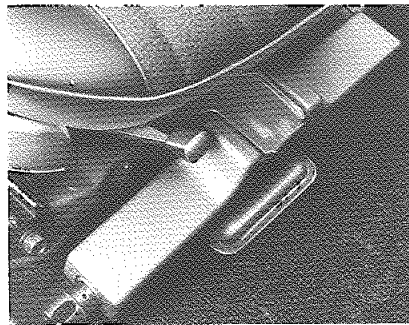
## 工具とジャッキ

### ■格納位置

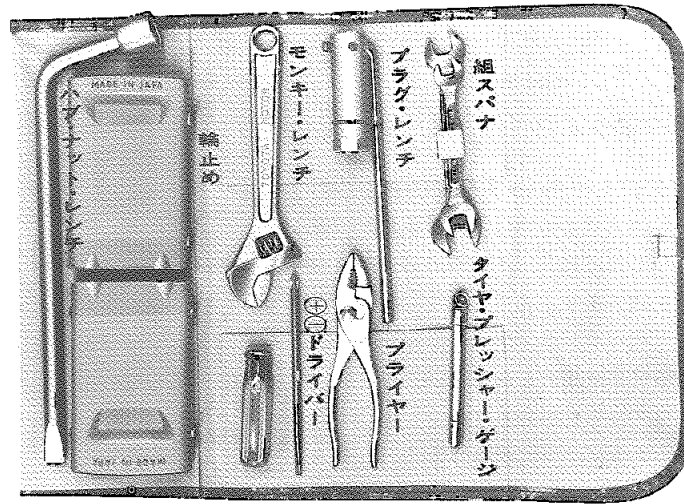
### 工具



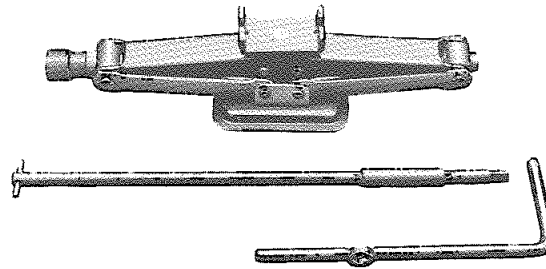
### ジャッキ



### 工具



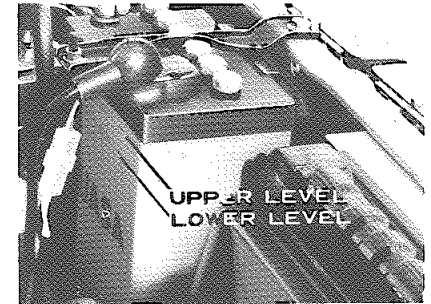
### ジャッキ



## バッテリー液の補給

### バッテリー液の量

バッテリーの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ります。バッテリー・ケースは半透明になっていますので液量は外から点検できます。液面が、UPPER LEVELとLOWER LEVELの間にあればよく、少ないときは蒸留水を補給してください。



## 冷却水の交換

マークIIには、必ずロングライフ・クーラントをご使用ください。

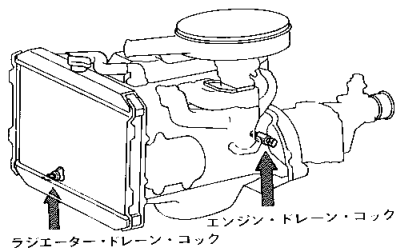
キャッスル・ロングライフ・クーラントは、冷却水と不凍液とを兼ねています。四季を通じて使用でき、通常は2年または40,000kmで交換してください。

交換する場合は次の要領で実施してください。

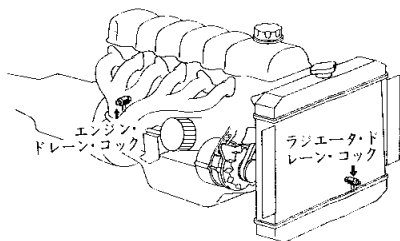
### 冷却水の交換

1. 図に示すエンジン・ドレーン・コック、ラジエーター・ドレーン・コックをはずし、冷却水を全部出します。

#### R X系



#### M X系



2. 水道の水でラジエーター内を洗浄しエンジン・ドレーン・コックとラジエーター・ドレーン・コックを取り付けます。

3. ロングライフ・クーラントの注入量は、下記の表を参照してください。

凍結防止温度	-15℃まで	-38℃まで
ロングライフ・クーラントの濃度	30%	50%
参考	冷却水量	16R, 18R系 8ℓ
		M 11.0ℓ

## 冷却水の補給

冷却水を補給する場合は上記の表の割合でロングライフ・クーラントを補給してください。

1. 新車および冷却水交換後、エンジン内に空気が残りしばらくは冷却水の減少が見られますが異常ではありません。
2. 補給はリザーブ・タンクに行なってください。LOWとFULLのレベルの間に保ってください。FULL以上は入れないでください。

## エンジン・ルーム・ランプ

#### L 車

エンジン・フード裏側に、点検灯が取り付けられています。ライト・コントロール・スイッチをONにした時に点灯します。夜間の点検などにご利用ください。

## 吸気コントロールバルブ

#### R X系

#### オプション

エア・クリーナー・ケースの吸気口にはバルブが設けてあり、バルブを操作することにより、吸入する空気の温度を調節できます。

バルブを操作するときは、吸気口の右横のネジを左に回してゆるめてから、ネジを持って前後に移動させます。

(バルブ操作は外気温15℃を基準して行ないます。)

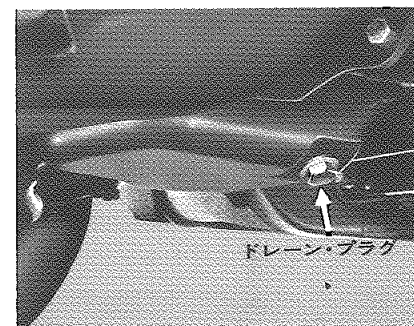
レバー操作は表示ラベルに従って操作は確実にしてください。

#### M X系

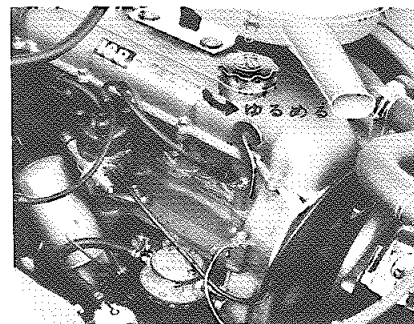
外気温が低くなると自動的にバルブが作動します。

## エンジン・オイルの交換

- 1 = エンジンのドレーン・プラグをはずしてオイルを出します。



- 2 = エンジン・ドレーン・プラグを取り付け、オイル・フィルター・キャップを取りはずしオイルを注入します。



オイルはトヨタ純正キャッスル製品をご使用ください。

SEオイル (キャッスル・モーター・オイル・スーパー・デラックス)

8,000kmまたは6カ月ごとに

無断複製禁止

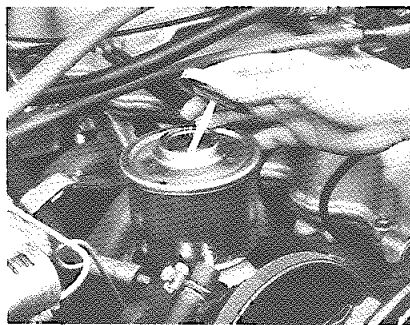
交換、(寒冷地および過酷な条件で使用される場合は、SEオイルでも50000kmで交換)

SC,SDオイル(その他のキャッスル・モーター・オイル)

5,000kmまたは6カ月ごとに交換

## パワー・ステアリング・フルードの点検

L車オプション



パワー・ステアリングのオイル量を5,000km走行程度ごとにお調べください。

オイル・タンクはポンプの上側になっています。キャップを左にまわして取り、キャップ・ゲージの目盛内にあるか確認します。

パワー・ステアリングのオイルには、必ずキャッスル・パワー・ステアリング・フルードをお使いください。

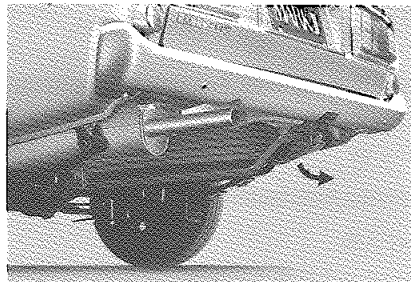
## パンクの処置

### ■パンクの処置

車を道路の左はしによせて

1 工具、ジャッキ、スペア・タイヤをとり出します。

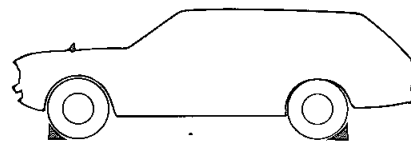
2 スペア・タイヤの取り出し方



ハンドルを起こしてフックからレバーをはずします。

スペア・タイヤ・キャリアをそっとおろし、スペア・タイヤを取り出します。盗難防止のため、錠前などで施錠することもできます。

3 輪止めをします。



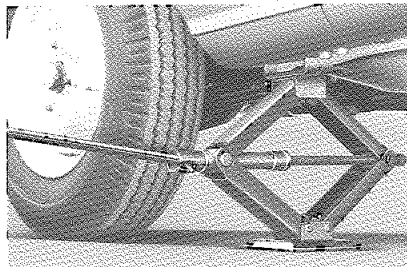
左側パンク時……右側前後のタイヤ  
右側パンク時……左側前後のタイヤ

4 ジャッキがはずれたときの危険防止のため、スペア・タイヤをパンクしたタイヤのボデーの下に置きます。

5 ホイール・キャップをドライバーではずします。直接ホイール・キャップに指をかけて引くことはやめてください。

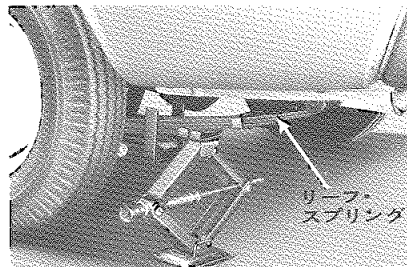
6 ジャッキをセットします。

フロント側



サイド・レールの切り欠き部にジャッキの受けをセットします。

リヤ側



リーフ・スプリングにジャッキの受けをセットします。

★注意★

ジャッキは地面の平らで安定できる所でセットしてください。

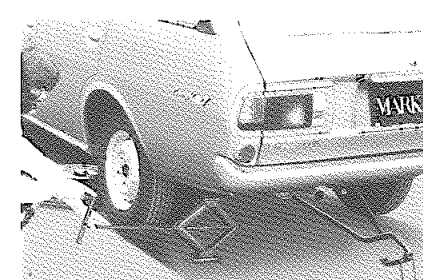
7 タイヤが、がたつかない程度にハブ・ナットをハブ・ナット・レンチでゆるめます。

8 タイヤと路面とが少しあくまでジャッキ・アップします。

★注意★

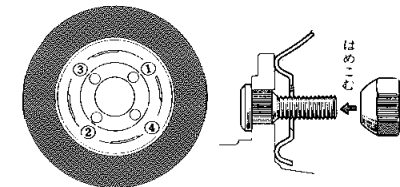
ジャッキ・アップしてからは車の下にもぐらないようにしてください。

万一、ジャッキがはずれると大変危険です。



9 ナットをはずし、タイヤを取りかえます。

10 ナットのテーパ部がホイール穴のシート部に軽く当たり、タイヤががたつかない程度までナットを締めます。



11 ジャッキをはずし、ナットは図の数字の順序に2〜3度にわたり、十分に締めつけます。

12 タイヤの空気口にキャップの穴を合わせホイール・キャップをとりつけます。

13 工具ジャッキを片づけましょう。

14パンクしたタイヤを積みましょう。スベア・タイヤの空気圧は規定空気圧より少し高めにしておきましょう。

★注意

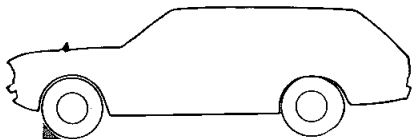
チューブレス・タイヤのパンク修理は、チューブ入りタイヤと修理方法がちがいますので確実に修理のできる工場で行なってください。

## タイヤ・チェーン

タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。

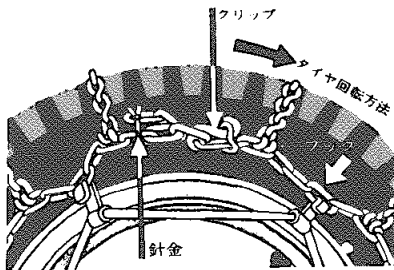
### ＜取り付け方＞

1. 前輪に輪止めをし後輪をジャッキ・アップします。



2. クロス・チェーンの折り曲げを外にしてタイヤを回しながらチェーンをかぶせます。

3. チェーンの両端をいっぱい引いて連結します。余ったチェーンは、ボデーに当るのを防止するために図のように針金で結びます。



4. チェーン・バンドはフックの爪を外向きにし、チェーンをひっぱります。
5. ジャッキをはずします。

### ＜取りはずし方＞

1. チェーン・バンドをはずし、針金をとりクリップは内側から先にはずします。
2. 車を少し動かしチェーンを取り出します。

★注意

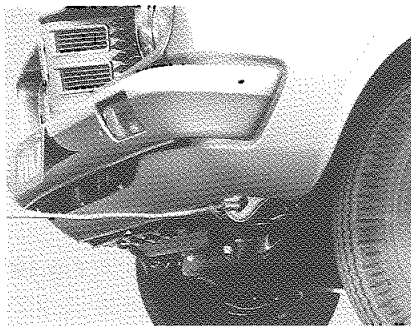
1. タイヤ・チェーンを装着して走行する場合は速度を50km/h以下で走行してください。
2. ラジアル・タイヤはラジアル・タイヤ専用のチェーンを装着してください。

## けん引について

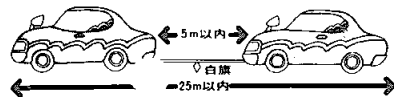
### ＜けん引ロープをかける位置＞

#### フロント側

けん引フックをご利用ください。



### ＜けん引のしかた＞

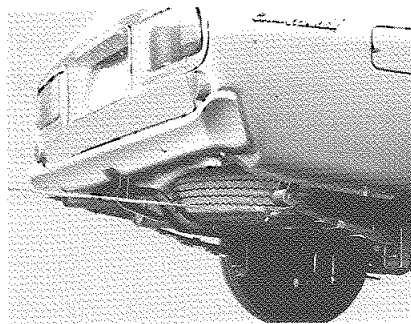


けん引車は、急発進、急停車をしないようにし、けん引される車は常にロープがたるまないように気をつけましょう。

### ＜オートマチック・トランスミッション車の場合＞

1. ①にして30km/h以下で行なってください。
2. オートマチック・トランスミッション内部に故障があり、動かすと不具合があると思われるときは、後の車輪をつり上げるか、プロペラ・シャフトをはずしてからけん引してください。

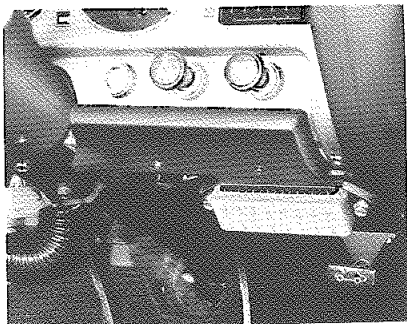
#### リヤ側



右側のフックを使用してください。左側のフックは新車時車両輸送用のものです。使用しないでください。

# ヒューズ、ランプ類の交換

## 〈故障の調べ方〉



運転席右足もとのヒューズ・ボックスのふたにヒューズ容量と主回路名が記入してあります。そのヒューズの受けもっている配線全部が作動しないときはヒューズ切れと考えられます。

1つだけ作動しないときは、ランプ切れかまたは配線に不具合があります。

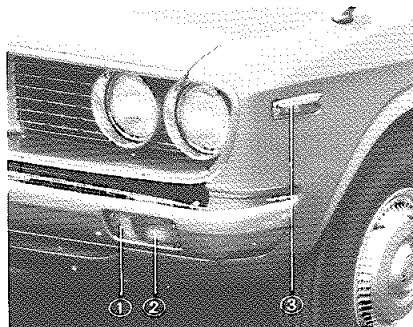
## 〈ヒューズの交換〉

1. ヒューズ・ボックスのふたを取ります。
2. ヒューズをはずします。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換します。

何度もヒューズが切れる場合は、針金、銀紙等を使用しないで、サービス工場での点検を受けてください。

## ■ランプの交換

### フロント側

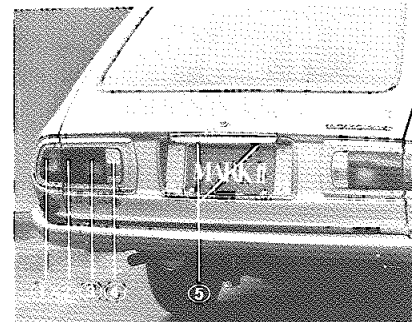


- ①クリアランス・ランプ&フロント・パーキング・ランプ(7/3.4W)
  - ②フロント・ターン・シグナル・ランプ&ハザード・ウォーニング・ランプ(23W)
  - ③サイド・ターン・シグナル・ランプ(8W)
- バルブを取るときはレンズ表面のネジをはずしてレンズをとり、バルブをいっぱい押し込んで左へまわしてははずします。バルブをはめるときはバルブをいっぱい押し込んで右にまわしてください。ダブル・フィラメント・バルブは、ボッチの位置が左右ちがいますのでご注意ください。

### ▶注意▶

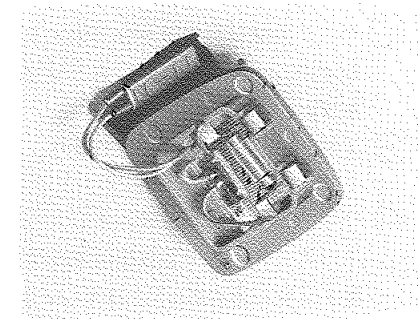
ソケットおよび接点部の錆、汚れは取ってください。

### リヤ側



- ①テール&パーキング・ランプ(7/3.4W)
  - ②ターン・シグナル・ランプ(23W)
  - ③ストップ&テール・ランプ(23/8W)
  - ④バック・アップ・ランプ(23W)
- レンズ表面のネジをはずしてランプ・ソケットを左にまわしてははずします。はめるときは、切り欠きをあわせて右へまわします。パーキング・ランプは引っぱるとはずれます。
- ⑤ライセンス・プレート・ランプ(7.5W)
- カバーのネジ2箇所をはずしてレンズを取り、バルブをいっぱい押し込んで左にまわしてははずします。

### ルーム・ランプ



### ルーム・ランプ(10W)

バルブの交換は、スイッチをOFFにして、ネジをはずし、ランプを引っぱり出してウラ側からバルブを取りはずします。デッキ・ルーム・ランプ(10W)手でランプ・カバーをはずし電球を交換します。

■断線したヒューズを発見するための一覧表

点灯および 作動個所		テ ー ル ラ ン プ	フ ロ ン ト の 車 巾 灯	ラ イ セ ン ス ブ レ ー ト ラ ン プ	コ ン ビ ネ ー シ ヨ ン メ ー タ ー 内 照 明 ラ ン プ	ホ ー ン	ス ト ッ プ ラ ン プ	駐 車 灯	ブ レ ー キ O K モ ニ タ ー	シ ガ レ ッ ト ラ イ タ ー	時 計	ル ー ム ラ ン プ	ラ ジ オ	ヒ ー タ ブ ロ ワ モ ー タ ー	コ ン ビ ネ ー シ ヨ ン メ ー タ ー 内 ゲ ー ジ	バ ッ ク ア ッ プ ラ ン プ	燃 量 残 量 警 告 灯	ワ イ バ ー モ ー タ ー	ウ イ ン ド ウ ォ ッ シ ャ ー	タ ー ン シ グ ナ ル ラ ン プ	ハ ザ ー ド ウ ォ ー ニ ン グ ラ ン プ	ボ ル テ ー ジ レ ギ ュ レ ー タ ( <b>I G</b> 端 子)		
TAIL テール・ランプ	15A	○	○	○	○																			
STOP ストップランプ・ホーン	20A					○	○	○	○															
LIGHTER ライター・ルームランプ	15A									○	○	○												
RADIO ラジオ	15A												○											
HEATER ヒータ・メータ	20A								○					○	○		○							
TURN ターンシグナル・ワイバ	15A															○		○	○	○	○			
ENGINE エンジン	15A																						○	
SPARE スペア	20A																							

- ※ 1. 不具合のある個所は点灯または作動しません。  
 2. スペア・ヒューズはケース・カバーに(スペア・ヒューズ-15A, 20Aが各1本)があります。

## 外装の手入れ

車を美しく保つには、日頃のお肌(塗装)の手入れが必要です。

ボデーのほこりは柔らかい布か毛ばたきでとりましょう。

塗装面が汚れたときは、なるべく早く洗車をし、汚れのひどいときはカーシャンプーを使用しましょう。

また塩分が付着したときは早く洗車しましょう。ワックスがけはボデーにツヤのなくなる前に適時行なってください。

### 〈洗車方法〉

1. 下まわりを洗いましょう。
2. スポンジかセーム皮で水量をたっぷりにして洗いましょう。
3. 汚れのひどいときは、必ずカーシャンプーを使用してボデー温度が体温以下になってから洗いましょう。
4. 塗面に、はん点が残らないよう十分水分をふきとりましょう。

### 〈ワックスがけ〉

1. 1カ月に1度または水のはじきが悪くなったとき行なってください。
2. ワックスがけはボデーが体温以下になってから行なってください。  
高温では塗装面が柔らかくなっていますからしみになる恐れがあります。
3. 使用方法是ワックスに記されていますからよく読んでお使いください。

4. ワックスは、トヨタ純正品で下記の名称のものをお使いください。

オートワックス・デラックス

オートワックス・カスタム

オートワックス・スペシャル

スピーディー・オートワックス・クリーン

スピーディー・ショット

### ★重要★

1. ワックスの中にコンパウンド(細い砂)の入っていないものをご使用ください。コンパウンドの入っているワックスを使用すると塗装の表面に細かい傷が残ります。
2. エンジン・ルーム内の電気系統に、水をかけないように注意してください。エンジン始動不良の原因になります。